



平成 30 年度実施事業「大学発ベンチャー事業シーズ育成支援プログラム」 (通称：第 2 期九大ギャップファンド) の実施と採択案件について

今年度に実施する「大学発ベンチャー事業シーズ育成支援プログラム」の事業シーズ 10 件を新規に採択しました（別紙参照）。昨年度と同様に九州大学の教職員に公募を募り、厳正なる審査の上、採択された事業シーズです。今後、平成 30 年 4 月から同年 10 月末までのプログラム期間を通して、起業に向けた事業化検証を進めて参ります。

本プログラムは、本学の研究成果に基づく大学発ベンチャーの創出促進を目的とした事業です。本学の教職員を対象とし、ベンチャーの起業を前提として提案された自己の研究成果に対して、事業化検証資金（200 万円／件）を助成します。プログラム期間中は、九州大学学術研究・産学官連携本部（AiRiMaQ）を窓口として、外部機関の支援を仰ぎながら事業化検証を進めていきます。プログラム期間終了後は、外部有識者から検証結果に対して評価・アドバイス等のフィードバックを得て、事業化を進めていく際の優位性や課題を明らかにします。なお、本プログラムを通じ有望な事業シーズであると認められた場合は、別途、起業へ向けた組織的な支援を実施していきます。

昨年度実施した第 1 期九大ギャップファンドでは、採択事業シーズ 10 件の中から早くも 2 社が起業し、その他の事業シーズも引き続き起業を視野に入れ事業化検証を進めています。

九州大学は、平成 28 年度より学術研究・産学官連携本部内に組織化したベンチャー創出推進グループが主体となり、大学の研究成果を社会実用化していくための 1 つの手段として起業支援を展開しています。ベンチャー創出推進グループは、グループ設立後、民間事業会社やベンチャーキャピタル等の外部機関と連携し、起業前から起業後まで組織的に支援を行う体制を構築してきました。中でも、事業シーズの発掘から事業化検証までを行う九大ギャップファンドをコア事業として推進し、九大発ベンチャーの創出支援を実施して参ります。

<プログラムの概要>



【お問い合わせ】

学術研究・産学官連携本部 ベンチャー創出推進グループ

TEL : 092-832-2168 FAX : 092-832-2147

Mail : startup@airimaq.kyushu-u.ac.jp

＜採択事業シースー一覧＞

No.	所 属	事 業 シ ー ズ の 名 称
	氏 名 (職 名)	概 略
1	工学研究院 機械工学部門	クラウド型スパコンを使った超大規模流体構造連成解析システム これまで不可能だった超大規模数値計算が手軽に短時間で利用可能！ 数兆自由度の流体構造連成解析を1時間で行うソフトウェアを内閣府のSIP事業で開発中。自動車や航空機のCAEクラウドシステムを提供する。
	深川 宏樹 (特任助教)	
2	先導物質化学研究所 ソフトマテリアル部門	血中に含まれるがん細胞 (CTC) の選択的分離回収技術 血液からCTCを選択的に分離回収し、がん診断や抗がん剤治療へ応用！ 血中に多量に含まれる血球細胞を排除し、微量のCTCでも選択的に吸着、採取する技術。血液検査でがんの検診ができる社会を実現する。
	田中 賢 (教授)	
3	グローバルイノベーションセンター アドバンスプロジェクト部門	原子厚みの超極薄シート (グラフェン) の大面積・高品質成長技術 大面積・高品質グラフェンの量産化技術の大本命！ 独自製造技術により大面積・高品質グラフェンの合成に成功。4インチウェハをサンプル提供し、グラフェン市場を席卷する。
	吾郷 浩樹 (教授)	
4	工学研究院 応用化学部門	インフルエンザワクチンシールの開発 誰もが手軽にセルフで予防接種できる社会に！ 病院で注射器を使って接種しているワクチンを、シールを貼ることで誰でも簡単に痛みなく接種できる社会の実現を目指す。
	後藤 雅宏 (教授)	
5	芸術工学研究院 デザイン人間科学部門	老人性難聴者に明瞭な音を届ける技術 聴こえにくい言葉を聴こえやすく！ 音声を不必要に増幅せず、言語コミュニケーションで重要な部分のみを強調して明瞭化する技術を開発し、超高齢社会に貢献する。
	中島 祥好 (教授)	
6	先導物質化学研究所 先端素子材料部門	光線力学療法用有機光照射装置 光線力学療法による低侵襲治療用光照射装置を開発します！ 光増感剤を投与し患部に光を照射することで、腫瘍組織のみを死滅させる光線力学療法を、幅広い病気に適用できる装置を開発する。
	藤田 克彦 (准教授)	
7	カーボンニュートラル・ エネルギー国際研究所 CO2分離・転換研究部門	農薬を徐放散布でき、かつ回収不要な農業用マルチシート 高齢化が深刻な農業分野で、農家の負担軽減に貢献します！ 一度敷設すれば、シートに含まれた農薬が徐々に散布され、かつシート自体が経時的に分解されるため回収不要な農業用マルチを開発する。
	谷口 育雄 (准教授)	
8	理学研究院 生物科学部門	IoTを駆使し、体験して学ぶことができる生態学教育支援アプリ 学習指導要領を網羅しながら、学生が馴染みやすい生態学教材を！ ウェブ空間上の仮想世界の中で、ユーザーのアクションが動植物の個体数に及ぼす影響を体現できる教材を開発し、教育改革を起こす。
	岩見 真吾 (准教授)	
9	エネルギー研究教育機構	ナノセルロースを使った安価な燃料電池膜の開発 安価な燃料電池を普及させ、地球温暖化やCO2の削減に貢献！ 高価なナフィオン電解質膜 (燃料電池作製コストの約3割を占める) をナノセルロースで代替し、安価な燃料電池の開発に貢献する。
	Lyth Stephen (准教授)	
10	システム情報科学研究院 I & E ビジヨナリー特別部門	シリコン樹脂を利用した光学素子及びモジュールの開発設計 タブレットで簡単計測できる、安価で小型の検出装置を開発します！ 高価で大型の検出機器と一線を画した、低価格で小型の、消耗品として提供できるようなタブレット貼付型シート状分光器を開発する。
	興 雄司 (教授)	